

令和8年度香川大学大学院地域マネジメント研究科 —地域の中小企業と経済活性化—

■講座概要

回	日 程	講 師	講 義 概 要
第1回	10月6日(火)	公益財団法人かがわ産業支援財団 理事長 寺嶋 賢治	地域活性化の政策と実践
第2回	10月13日(火)	Fintegrity 株式会社 代表取締役社長 三木 佑也	日本経済の不都合な真実を打ち破れ ～挑戦するためのガイドブック～
第3回	10月20日(火)	日本ルースト株式会社 代表取締役 中野 裕介	中高年からのスタートアップ「探求心を持続させる」
第4回	10月27日(火)	株式会社シニアライフアシスト 専務取締役 合田 敦	ロイヤルケア高松が選ばれる理由 ～離職激減！なぜ人が集まるのか～
第5回	11月10日(火)	一般社団法人希少糖普及協会 代表理事会長 早川 茂	希少糖の産学官連携事業から商業展開への道のり
第6回	11月17日(火)	株式会社カワニシ 代表取締役 川西 弘城	地域企業を支える経営者に求められるもの ～へなちょこ後継者の奮闘記～
第7回	11月24日(火)	株式会社北四国グラビア印刷 代表取締役社長 奥田 拓己	「ニーズに応える」から「社会をより良くする」へ ～グラビアーズと描く、これからの会社のものづくり～
第8回	12月1日(火)	株式会社穴吹トラベル 代表取締役社長 阿部 有香	小さな旅行会社が地方創生企業になるまでの道のり
第9回	12月8日(火)	四国繊維販売株式会社 代表取締役会長 斎藤 勤	全員参加型経営 製造型 SPA を目指して、どん底からの復活劇
第10回	12月15日(火)	株式会社コート 専務取締役 堀 亮太郎	当たり前の仕事の中にある価値 ～道路標識メーカーが外に開くことで気づいたこと～
第11回	12月22日(火)	合同会社 Y2BLEND LLC 代表社員 八十川 浩一	目的・目標の明確化、人脈形成と情報収集・分析、 ビジネスモデルの構築・システム化、プロデュース・デ イレクション
第12回	1月12日(火)	株式会社伊藤スイミングスクール 代表取締役 伊藤 智也	スイミングスクール経営から考える地域中小企業の生存 戦略
第13回	1月19日(火)	株式会社パソナ地方創生 代表取締役社長 近江 淳	地域課題をビジネスに変える ～琴平での実践から学ぶ、地域事業のつくり方～
第14回	1月26日(火)	美馬産業株式会社 代表取締役 美馬 宏行	なぜ香川でラムをつくるのか
第15回	2月2日(火)	フジタ自動車工業株式会社 代表取締役 藤田 健一郎	人口減少時代、それでも地方企業は成長できるのか ～海外・開発・人材をテーマに皆さんと考える～

※ 詳細な講義概要及び講師紹介は各ページをご覧ください。

【第 1 回】講義概要紹介 10 月 6 日(火)

■ 講師

【略歴】

昭和 40 年	坂出市出身
昭和 59 年	香川県立丸亀高校卒業
昭和 63 年	大阪大学法学部卒業
昭和 63 年	香川県庁入庁 住宅課長、危機管理課長、交流推進課長、 政策課長、危機管理総局次長などを歴任
令和 2 年	危機管理総局長
令和 4 年	商工労働部長
令和 8 年	(公財)かがわ産業支援財団理事長



寺嶋 賢治
(てらしま けんじ)

公益財団法人かがわ産業支援財団
理事長

【講師紹介】

出身は坂出市。地元での就職を希望し、大学卒業後、昭和 63 年に香川県庁に入庁。今年 3 月に退職するまで、環境を皮切りに、税務、福祉、農水、土木、交流、政策、危機管理などすべての部局を経験。退職前の 4 年間は商工労働部長を務めた。

商工労働部長として、令和 6 年には GPU クラウドサービスを展開する株式会社ハイレゾのデータセンターをかがわ産業支援財団の施設「RIST かがわ」に誘致。さらに今年 2 月には、世界最大手の半導体メーカー「エヌビディア」と GPU データセンターの誘致や活用などに関する連携協定を結んだ。

令和 8 年 4 月に、かがわ産業支援財団理事長に就任。「仕事は人」をモットーに、人に寄り添い、企業に寄り添う、きめ細やかな支援をしていくことに力を入れている。



【公益財団かがわ産業支援財団について】

県内企業の総合的な支援機関として、新産業の創出、地域企業の経営基盤の強化、産業技術の高度化、科学技術の振興などに取り組んでいます。

■ 講義概要

地域活性化の政策と実践

公益財団法人かがわ産業支援財団の

- 活動概要と役割
- 支援施策
- 県内企業への支援事例

等について講義します。



【第 2 回】講義概要紹介 10 月 13 日(火)

■ 講師

【略歴】

昭和 58 年	坂出市出身
平成 14 年	香川県立丸亀高校卒業
平成 18 年	慶應義塾大学経済学部卒業
平成 18 年	野村證券(株)入社
令和 4 年	Fintegrity(株)創業 代表取締役社長就任

【講師紹介】

香川県で生まれ、大学卒業後は一貫して金融業界でキャリアを歩んできました。前職の野村證券では、リテール営業部門にて富裕層向け資産運用コンサルティング業務に従事、また投資銀行部門では M&A や MBO、企業防衛案件など多くの大型ディールを手掛けてきました。

これまでの経験から日本では正確なお金の知識を学ぶ場がなく、結果として資産運用や M&A で不利な選択を強いられているお客様が多いことを痛感。金融の不都合な真実をなくし、誠実にお客様に向き合う金融機関を創るために Fintegrity 株式会社を設立しました。

地元香川に貢献する機会をいただき、大変感謝しております。何卒よろしくお願い致します。



三木 佑也

(みき ゆうや)

Fintegrity 株式会社

代表取締役社長



【Fintegrity 株式会社について】

金融の不都合な真実をなくし、正確な金融の知識を誠実にお客様に届けたいという志のもと令和 4 年に創業しました。主な事業内容は、①資産運用アドバイザー事業②金融経済教育事業③M&A、資本業務提携アドバイザー事業④企業価値向上コンサルティング事業です。

弊社の最大の強みは、地方と東京の資金・情報循環のハブ機能を有することです。東京では良いノウハウやサービスを地方に届けたくてもアクセスがなく、橋渡しするアドバイザーも数少ないのが現状です。

弊社では確立された事業と投資機会を持つ地方企業と東京の最先端のサービスを繋ぎ、シナジーをすることで日本の産業再編、成長を支援しています。

■ 講義概要

日本経済の不都合な真実を打ち破れ ～挑戦するためのガイドブック～

- ・日本の産業構造の変化 ～M&A における合従連衡の流れ～
- ・エクイティによる資金調達マーケットの事情
- ・挑戦者達の声を聴く (WEB 会議でベンチャー企業の経営者・CFO などをゲストとして、三木と対談する予定です)
- ・金融の知識を知らずに成功なし ～金融の不都合な真実を理解する～

【第3回】講義概要紹介 10月20日(火)

■ 講師

【略歴】

昭和 50 年	高松市出身
平成 10 年	早稲田大学政治経済学部卒業
平成 12 年	(有) 電マーク創業 代表取締役就任
平成 16 年	香川大学大学院工学研究科修了 日本ルースト(株) 創業
令和 6 年	代表取締役就任 ((有) 電マーク代表 取締役兼務)

【講師紹介】

大学では経済を学ぶものの、IT を独学で勉強。
24 歳で香川に戻り、有限会社電マークを起業。
平成 14 年に香川大学大学院工学研究科に社会人として入学、情報通信を学び直した。
平成 28 年に企画運営に携わった「G7 香川・高松情報通信大臣会合」で「AI 時代の到来」を感じ、40 歳から研究開発を再開。平成 30 年に総務省「異能 vation 破壊的挑戦部門」最終選考者に選出されるなど、AI の研究開発を進めてきた。
50 歳を前に「生物・生態系 AI」に取組む日本ルースト株式会社を設立し、経済産業省の「J-Startup West」に選定される。現在は農林水産省の「スタートアップ総合支援プログラム」にて産官学の委託研究を進めている。



中野 裕介
(なかの ゆうすけ)
日本ルースト株式会社
代表取締役

【日本ルースト株式会社について】

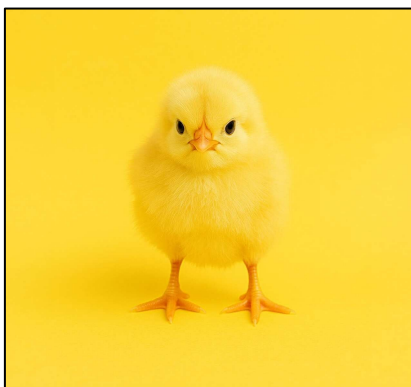
令和 6 年に有限会社電マークから分社し、高松市で創業。生物生態系に特化した AI の研究開発から事業化を展開している。

日本ルースト株式会社の「ルースト」は「宿り木」を意味する。雨や風の日は「宿り木」となって、AI 技術で生産者が高く成長していただけるような社会貢献を目指している。

最近、肛門鑑別 AI をきっかけに、鑑別師不足に悩む地域公設試験場での雌雄判定技術の開発を行い、公益財団法人かがわ産業支援財団が行う「第 33 回芦原科学賞 奨励賞」を受賞した。

■ 講義概要

中年からのスタートアップ「探求心を持続させる」



- ・ 地方の中小企業が、国の委託研究プロジェクトを獲得できるようになった経緯
- ・ 香川大学 大学院で学んだ経験と得たもの
- ・ 一度は断念しても、探求心を持続できれば、何歳でも再チャレンジできる
- ・ AI を効率的に活用する時代「AI に使われるのではなく、AI を使い倒す」

【第 4 回】講義概要紹介 10 月 27 日(火)

■ 講師

【略歴】

平成 10 年	(株) カナック入社
平成 16 年	(株) シニアライフアシスト入社
平成 25 年	取締役役に就任
平成 27 年	常務取締役役に就任
令和 2 年	専務取締役役に就任

【講師紹介】

映画「ビリギャル」のような学生時代を送る。花火師として職人を目指しながら専門学校で建築を学び、株式会社カナックに入社。様々な部門を経験した後、新規事業を立ち上げる部門に所属。

事業として「高級な有料老人ホーム」を思いついた頃、同様の事業を考えていた株式会社シニアライフアシストに転職。

翌年、「ロイヤルケア高松」を立ち上げ、一時は 2 億円以上の負債を抱えたが、軌道修正し、V 字回復を実現。社員数 1 名から 100 名を超える企業へ急成長させた。

全国 18 の優良介護施設、介護事業「伝説の経営者」にも選出された。



合田 敦

(ごうだ つとむ)

株式会社シニアライフアシスト
専務取締役



ロイヤルケア高松

株式会社シニアライフアシスト

【株式会社シニアライフアシストについて】

平成 15 年	株式会社シニアライフアシスト	創立
平成 17 年	介護付有料老人ホーム	ロイヤルケア高松 設立
	ロイヤルケア高松デイサービスセンター (現：テルメ)	設立
	居宅介護支援事業所	ロイヤルケア高松 (現：休止) 設立
平成 23 年	介護付有料老人ホーム	ロイヤルケア高松アネックス 設立
平成 30 年	シニア向け賃貸住宅	ロイヤルレジデンスプリモ 設立
	ロイヤル高松デイサービスセンターテルメ	設立
令和 4 年	家事お手伝いサービス	コッコレ 設立

■ 講義概要

ロイヤルケア高松が選ばれる理由 ～離職激減！なぜ人が集まるのか～



株式会社シニアライフアシストが運営する介護事業、事業への想い、各種認定・受賞歴、社内制度等について、動画を放映します。

その中に、離職率が高いと言われている業界でありながら、弊社で離職率が激減したヒントがあると思います。

【第5回】講義概要紹介 11月10日(火)

■ 講師

【略歴】

昭和 52 年	名古屋大学農学研究科博士課程修了
昭和 54 年	名古屋大学農学部助手
平成 3 年	香川大学農学部教授
平成 21 年	香川大学農学部長
平成 25 年	香川大学理事・副学長
平成 27 年	香川大学名誉教授・特命教授
令和 2 年	(一社)希少糖普及協会代表理事会長

【講師紹介】

希少糖を用いた食品開発研究に 20 年以上にわたって取り組み、産学官連携事業において民間企業における希少糖活用の支援を行ってきた。

また、国際希少糖学会の事務局長として希少糖の世界への発信や希少糖研究者の育成に努めた。

現在は、一般社団法人希少糖普及協会の代表理事会長として希少糖の国内外に向けての普及活動を行っている。



早川 茂

(はやかわ しげる)

一般社団法人希少糖普及協会
代表理事会長

【一般社団法人希少糖普及協会について】

希少糖の利用を普及、発展させることによって、会員の事業発展に資するとともに、希少糖関連技術の進歩および人類の健康と社会の発展に寄与することを目的として、情報発信や研究支援、利用技術の向上に貢献する活動を行っています。

■ 講義概要

希少糖の産学官連携事業から商業展開への道のり

自然界に微量しかない単糖である希少糖を生産する酵素を土壌中の微生物から単離し、希少糖の大量生産を目指す産学官連携事業が、香川大学を中心にして 20 数年前に香川県で立ち上がった。

研究開発と事業化は困難の連続であったが、「知的クラスター創成事業」や「都市エリア事業」などいくつかの産学官連携事業を通して、アルロースの大量生産が可能となり、民間企業での活用が始められた。



平成 13 年に設立した国際希少糖学会では、香川県において国際シンポジウムを開催し、希少糖研究者の育成ならびに香川県民や企業への希少糖の広報活動を行ってきた。このように産学官連携事業により、アルロースの商品利用価値の科学的根拠を明らかにするとともに、アルロース等を利用した商品開発がなされてきている。産学官連携での希少糖の事業化について、商業展開を中心として講義を進めます。

【第6回】講義概要紹介 11月17日(火)

■ 講師

【略歴】

昭和 45 年	高松市出身
平成 7 年	工学院大学大学院機械工学専攻修了
平成 7 年	月島機械（株）入社
平成 18 年	（株）カワニシ入社
平成 25 年	専務取締役就任
平成 30 年	代表取締役就任

【講師紹介】

大学入学と共に上京し、それ以来、東京にて就職・結婚と順風満帆な生活を送っていましたが、父から突然、家業を承継する命が下り、想定外の帰郷をしました。

後継者として、経営者として…。紆余曲折を経て現在があります。



川西 弘城
(かわにし ひろき)

株式会社カワニシ
代表取締役

【株式会社カワニシについて】

昭和 39 年に高松市で創業、ひとこと言うと「鉄工所」。大手移動式クレーンメーカーの部品製造を核に、製造業を中心としたお客様のニーズに沿った搬送機械・省力化機械の設計製作を行っています。

企業理念は「ありがとうが原動力」。ものづくりを通じて喜びと感動を創造することで、お客様はもちろんのこと、社員や協力企業様、地域社会の皆様にも愛される企業を目指しています。

■ 講義概要

地域企業を支える経営者に求められるもの ～へなちょこ後継者の奮闘記～



大手企業での経歴と成功体験を胸に家業に戻った私は、「理屈や理論、数字と正論があれば人は動く」と信じていました。

しかし、その考えは入社後すぐに打ち砕かれます。人間関係の大切さに気づき、会社が落ち着きを取り戻したのも束の間、今度は自らの過信から大きな失敗を招き、会社を危機的な状況に陥れました。

本講義では自らの失敗と再建の経験を辿りながら、安全・ひとづくり・組織づくりの重要性、そして地域に根差す中小企業が果たす役割について考えます。失敗の先にある経営者としての成長と、地域経済を支える企業の使命を皆さんと共に考察します。

【第 7 回】講義概要紹介 11 月 24 日(火)

■ 講師

【略歴】

昭和 38 年	観音寺市出身
平成 62 年	立命館大学経済学部卒業
平成 2 年	(株)北四国グラビア印刷入社
平成 18 年	代表取締役社長に就任

【講師紹介】

一過性の流行にとらわれず、これからの社会に本当に求められる「より良き在り方」を常に探求しています。

現在は、グラビアーズ（従業員）一人ひとりが輝き、互いに高め合える組織運営の仕組みづくりに情熱を注いでおり、本講義では地域の未来を担う皆さんとともに、これからの温かい会社経営の姿を考えていきたいです。



奥田 拓己

(おくだ たくみ)

株式会社北四国グラビア印刷
代表取締役社長

【株式会社北四国グラビア印刷について】

観音寺市を拠点に、食品を中心としたパッケージなどの軟包装を手掛けるものづくり企業です。食品メーカーをはじめとするお客さまの商品づくりを支える一方、環境に配慮したパッケージ開発にも積極的に取り組み、業界の賞を連続受賞するなど高い評価を得ています。

令和 8 年 9 月には、三豊市高瀬町に新たなスマートファクトリー「たかせフィールド」が誕生。本社工場あわいベースとのそれぞれの強みを生かしながら、品質、生産性、安定供給のさらなる向上を目指しています。

■ 講義概要

「ニーズに応える」から「社会をより良くする」へ
～グラビアーズと描く、これからの会社のものづくり～



これからの時代に求められるのは、単に市場のニーズに応えるだけでなく、本業を磨き、社会や環境の変化に新たな価値で応えていく企業の姿勢だと考えます。

今回の講義では、食品パッケージを通じて食の安全・安心を支えてきた歩みや、環境に配慮した製品開発、逆境をチャンスに変えた実践例を紹介。

さらに、今秋誕生した新工場「たかせフィールド」の構想を交えながら、品質・生産性・安定供給を高め、企業を進化させる挑戦について皆さんと考えてゆきたいです。

【第 8 回】講義概要紹介 12 月 1 日(火)

■ 講師

【略歴】

平成 3 年	京都女子大学短期大学部文科英語専攻卒業
平成 3 年	大和証券(株)入社
平成 5 年	穴吹エンタープライズ(株)入社 (トラベル事業部配属)
平成 25 年	(株)穴吹トラベル 取締役就任
平成 29 年	代表取締役社長就任
令和 2 年	香川大学大学院地域マネジメント研究科修了
令和 3 年	せとうち観光専門職短期大学准教授 就任
令和 7 年	(一社) JARTA 代表理事就任

【講師紹介】

添乗員アルバイトを経て、株式会社穴吹トラベルへ入社。25 歳の時に社内ベンチャー新事業「穴吹ツアー四季の旅」を立ち上げた。価格の安さが「売り」のバスツアーが主流の時代に「お客様(特に女性)にとって本当に喜ばれる旅とは？」をメンバーと共に追い求め続け、日本有数の企画・催行率を誇る事業に成長させた。

インバウンド事業に本格参入後、代表取締役社長に就任。コロナ渦を乗り越え、外国人中心のチームによる富裕層向けインバウンド事業や独自企画のツアーで地域の魅力を発信し続けている。

行政連携の地方創生事業から専門的なプライベートガイド旅まで、企画力と行動力で世界と地域を繋ぐ、この地ならではの「サステナブルツーリズム」を牽引し続けている。



阿部 有香

(あべ ゆか)

株式会社穴吹トラベル
代表取締役社長



【株式会社穴吹トラベルについて】

創業から 35 年以上、香川徳島発着の企画ツアーを主力事業に、現在では富裕層向けインバウンド事業やお遍路旅、着地型コンテンツ「たかまつ」、行政と連携した地方創生事業など、独自の企画力とリアルな実践力で四国瀬戸内と世界を繋ぐ旅行会社。

■ 講義概要

小さな旅行会社が地方創生企業になるまでの道のり

どこにでもある小さな地方の旅行会社だった「あなぶきトラベル」が、なぜ旅行観光業界の中で特別な存在になったのか、「旅行」ではなく「価値」を提供する企業として生まれ変わったのか。

観光業界を取り巻く、時代や社会課題の変遷と合わせて、地元企業が取り組める地方創生事業の数々を紹介。講師が立ち上げてきた新規事業の事例を元に、楽しく学べる実践型の講義です。

【第9回】講義概要紹介 12月8日(火)

■ 講師

斎藤 勤（さいとう つとむ）

四国繊維販売株式会社 代表取締役会長

【略歴】

昭和 41 年	高松市出身
昭和 59 年	大手前高松高等学校卒業
平成 6 年	四国繊維販売（株）入社
平成 20 年	代表取締役社長就任
令和 元年	代表取締役会長就任

【講師紹介】

創業者である故保科義孝の経営哲学に感銘を受けて同社に入社しました。製造現場、生産管理に従事し、営業統括を経て現職となります。寝具の製造型 SPA 企業（企画、製造、販売）を目指し、全員参加型経営で日々取り組んでいます。

趣味はゴルフとみんなとの食事会です。

私の信条は「創意工夫、まずやる、後でなおす」です。自らの意思で自発的にやってみること、そして色々と工夫し、直しながら達成していくことを大事にしています。

【四国繊維販売株式会社について】

四国繊維販売株式会社は、昭和 41 年に善通寺市で創業し、今年で 60 周年を迎える寝具の総合メーカーです。主に小売店向けに製造卸売事業を展開しています。

創造性に富んだグローバルな視野での発想を大切に考え、商品の企画から製造、物流に至るまで一貫してプロデュースしています。

最近では、ふとんファクトリーという EC サイトを通じて、一般の消費者に直接販売も行っております。特に車中泊用のふとんが注目を集めています。

■ 講義概要

全員参加型経営 製造型 SPA を目指して、どん底からの復活劇

- ・過去のどん底だった会社から、どのように復活したのか
- ・そのために挑戦してきたこと、変えてきたこと
- ・個人の変化と会社の変化
- ・全員参加型経営とは
- ・全員参加型経営を目指して取り組んだこと
- ・製造型 SPA 企業とは
- ・製造型 SPA 企業を目指して取り組んでいること
- ・60 周年の創造を力に、新たな価値へ
- ・「創造」拓く（ひらく）のは、自分たちだ！

【第 10 回】講義概要紹介 12 月 15 日(火)

■ 講師

【略歴】

昭和 64 年	滋賀県草津市出身
平成 24 年	同志社大学政策学部卒業
平成 24 年	同業他社に入社
平成 29 年	(株)コート入社
令和 8 年	専務取締役就任

【講師紹介】

滋賀県で幼少期を過ごし、小学校入学前から高校卒業まで高松市で育ちました。

就職活動を通じて、社長である父の苦勞に気づいたことをきっかけに、大学卒業後は同業他社で 5 年間勤務しました。

株式会社コート入社後は大阪支店で営業と工事管理に携わり、伊丹空港外周道路の標識・看板工事では、現場代理人も担当しました。

その後、香川県本社へ異動し、営業活動に加え、社員が自社の仕事に誇りを持てるよう、外部発信の機会づくりにも取り組んでいます。



堀 亮太郎

(ほり りょうたろう)

株式会社コート
専務取締役



【株式会社コートについて】

株式会社コートは、昭和 31 年創業、今年で創業 70 年を迎える道路標識メーカーです。道路標識の製造・施工を中心に、交通安全施設工事や鉄道車両のラッピングなど、社会インフラに関わる事業を展開しています。標識板のアルミ加工、塗装、反射シートの加工から現地施工まで幅広く手掛けています。近年は、建設フェアへの出展や工場見学、学校での講演などを通じ、道路標識やものづくりの仕事を広く知ってもらう活動にも取り組んでいます。

■ 講義概要

**当たり前の仕事の中にある価値
～道路標識メーカーが外に開くことで気づいたこと～**



道路標識の種類や製造・施工方法、発注から設置までの流れなど、身近でありながら意外と知られていない仕事を紹介します。工場見学やイベント出展を通じ、自分たちには当たり前だった工程や素材が、外から見ると興味深いものであることに気づきました。こうした外部との接点が、仕事の価値の再発見や社員の説明力・見せ方の工夫、自社の仕事への誇りを感じるきっかけにもなっていることについてお話しします。

【第11回】講義概要紹介 12月22日(火)

■ 講師

【略歴】

昭和34年	高松市出身
昭和52年	香川県立志度商業高等学校経理科卒業
昭和52年	伊藤忠商事(株)入社
令和6年	(同) Y2BLEND LLC 創業 代表社員就任

【講師紹介】

志度商業高等学校で経理、基本ビジネスを学んだ後、グローバルな仕事に就きたく、伊藤忠商事株式会社に入社。大阪本社、東京本社で主に繊維関係の仕事を経て、香川県に戻り、呉服卸会社に入社。着物の新ビジネス展開を開始。23～35歳まで商売を学ぶ。

35歳からコーヒー業界に入り、中南米、アジアのコーヒー農園を訪問していき、コーヒーを学ぶ。焙煎メーカー、卸、小売、店舗展開、プロデュース等を経て、本格的に Y2BLEND LLC 合同会社を設立した。



八十川 浩一

(やそがわ こういち)

合同会社 Y2BLEND LLC
代表社員

【合同会社 Y2BLEND LLC について】

令和6年に高松市で創業し、コーヒー焙煎メーカー、チョコレート製造会社向けにインドネシアコーヒー、カカオ輸入販売事業を展開しています。

インドネシアコーヒー、カカオの専門商社として、インドネシア政府、農園、農家の方々と本格的に、日本のマーケットで、安心、安全、継続性をモットーに、商品開発や店舗プロデュース等を手掛け、大手量販店、コーヒー専門輸入会社とタイアップし、コーヒー業界から注目を集めております。

■ 講義概要

目的・目標の明確化、人脈形成と情報収集・分析、
ビジネスモデルの構築・システム化、プロデュース・ディレクション



- ・ 本質を考え、本音で語り、本物を目指す。
- ・ 情報の多様性を活かしシステム化する。

【第 12 回】講義概要紹介 1 月 12 日(火)

■ 講師

【略歴】

昭和 61 年	丸亀市出身
平成 24 年	(株)伊藤スイミングスクール入社
平成 31 年	慶應義塾大学大学院健康マネジメント研究科修了
令和 6 年	代表取締役就任

【講師紹介】

スイミングスクールの二代目経営者として、地域に根差したスポーツ・健康づくり事業に取り組んでいます。また、公衆衛生・スポーツ医学分野での研究活動にも従事しています。

地域活動にも積極的に参画し、令和 8 年度は、公益社団法人日本青年会議所香川ブロック協議会の会長を務めました。

現在は、業界団体の一般社団法人日本スイミングクラブ協会の理事として、スイミング業界の発展や持続可能なスポーツ環境の実現にも取り組んでいます。



伊藤 智也

(いとう ともや)

株式会社伊藤スイミングスクール
代表取締役

伊藤スイミングスクール

たくましく、ねばり強く、礼儀正しい子

【株式会社伊藤スイミングスクールについて】

昭和 57 年に、丸亀市で創業し、丸亀市・坂出市でスイミングスクール及びフィットネスクラブを運営しています。

乳幼児から高齢者まで、幅広い世代を対象に、水泳指導を通じた健全育成や健康増進に取り組んでいます。近年では、AI カメラなどのデジタル技術を活用した新たな指導にも挑戦しています。また、小学校水泳授業の受託など、民間施設や専門人材を活かし、地域課題の解決にも取り組んでいます。

■ 講義概要

スイミングスクール経営から考える地域中小企業の生存戦略

水泳の歴史とスイミングスクール業界の成り立ちを振り返り、会員制ビジネスの収益構造や施設運営にかかるコストなど、そのビジネスモデルを紹介します。また、少子化による市場縮小や学校水泳授業の民間委託、競泳選手の育成など、業界を取り巻く環境の変化と、それに対応する経営の実例を解説します。

地域の中小企業が、収益性と社会的な役割を両立しながら、持続的に成長していくための経営について考えます。

【第13回】講義概要紹介 1月19日(火)

■ 講師

【略歴】

昭和45年	埼玉県草加市出身
平成6年	(株) パソナ入社
	(株) 広報戦略室(※) 創業 代表取締役社長就任
平成20年	※平成26年、「(株) 地方創生」に商 号変更 ※令和8年、「(株) パソナ地方創生」に 商号変更

【講師紹介】

平成6年、株式会社パソナに入社し、企業広報・社内広報を担当。IT企業等で広報・IR責任者を歴任後、平成20年に、株式会社広報戦略室を創業した。

平成26年、株式会社パソナグループの出資を受けて、会社の称号を株式会社地方創生に変更し、自治体のシティプロモーション等を展開。令和2年から、琴平町で空き店舗を活用した地域事業を開始し、飲食・宿泊・醸造などの複合施設「KOTOVEGAS」を運営している。



近江 淳

(おうみ じゅん)

株式会社パソナ地方創生
代表取締役社長

【株式会社パソナ地方創生について】

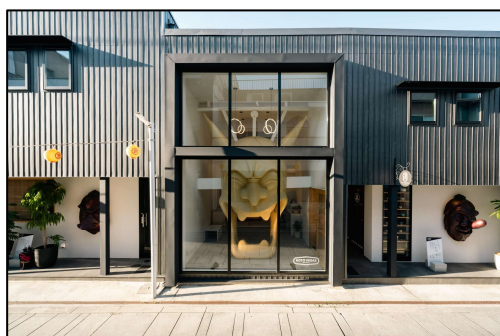
株式会社パソナ地方創生は「地方の元気が、日本の元気に。」をスローガンに、地域の課題を事業の力で解決する地方創生会社です。

自治体・企業・地域事業者と連携した事業開発や人材育成、関係人口創出に加え、香川県琴平町では、飲食・宿泊・クラフトビール・ベーグルなど自ら地域事業を運営しています。

構想や提言にとどまらず、地域に入り、挑戦し、収益と雇用を生み出す実践型の地域活性化に取り組んでいます。

■ 講義概要

地域課題をビジネスに変える ～琴平での実践から学ぶ、地域事業のつくり方～



人口減少や人手不足が進む地域で、企業は地域課題をいかに事業機会へ変えられるのか。全国各地での自治体・企業との事業開発と、香川県琴平町で飲食・宿泊・ものづくりを自ら経営してきた実例をもとに、構想を事業へ落とし込む方法、地域内外の仲間を巻き込む連携のつくり方、失敗から学びながら継続可能な事業モデルを育てるプロセスを紹介します。

【第14回】講義概要紹介 1月26日(火)

■ 講師

【略歴】

昭和 60 年	高松市出身
平成 21 年	駒澤大学卒業
平成 27 年	美馬産業（株）入社
令和 2 年	代表取締役就任

【講師紹介】

大学卒業後6年間の会社員生活を経て、平成27年に美馬産業株式会社に入社。令和2年に、代表取締役に就任。

令和元年から、新規事業としてのラム酒の製造事業を立ち上げた。これまでに3度実施したクラウドファンディングでは延べ1,000人を超える支援者から、約2,200万円の支援を得た。



美馬 宏行

(みま ひろゆき)

美馬産業株式会社
代表取締役

【美馬産業株式会社について】

美馬産業株式会社は、昭和2年に徳島で染料卸として創業、断熱材・吸音材などの建築資材の販売・施工を中心に事業を展開しています。

創業100周年を目前に、既存事業に加えて新たな事業づくりにも取り組み、令和元年には、香川県東かがわ市でラム酒製造事業を開始しました。地域の素材や文化を生かした商品開発に取り組んでいます。

■ 講義概要

なぜ香川でラムをつくるのか



人口減少やアルコール離れを背景に、国内酒類市場は縮小を続ける一方、各地では小規模な酒類メーカーへの新規参入が相次いでいる。本講義では、香川の地場産業である和三盆の副産物・糖蜜を原料としたラム事業を題材に、地ビールブームの栄枯盛衰や小規模事業者の持続可能性を検証する。地域に既にある資源をどうつなぎ直し、経済合理性と文化の継承を両立させ、次の世代へ手渡していくのかを考える。

【第15回】講義概要紹介 2月2日(火)

■講師

藤田 健一郎（ふじた けんいちろう）

フジタ自動車工業株式会社 代表取締役

【略歴】

昭和 57 年	高松市出身
平成 17 年	大学卒業
平成 20 年	フジタ自動車工業（株）入社
平成 30 年	代表取締役就任

【講師及びフジタ自動車工業株式会社紹介】

昭和 25 年に高松市で創業し、70 年以上の歴史を歩んできた会社で、私は平成 20 年に入社し、平成 30 年に代表取締役に就任いたしました。

当社は、運送会社様、建設会社様、回送業者様向けに、主には重機、産業機械運搬車の製造を得意としており、商流上は全国のトラック販売会社様(日野、三菱ふそう、いすゞ、UD トラックス等)に販売をしています。

「モノづくり、物流を通じて社会に貢献し続ける」という理念のもと、製造・販売・修理を通じて、社会貢献をすることを目指しています。

■講義概要

**人口減少時代、それでも地方企業は成長できるのか
～海外・開発・人材をテーマに皆さんと考える～**



人口減少時代に、地方企業がいかにして成長していくのかについて、皆さんとのグループワークを交えて、お話します。

- ・私の略歴
- ・自社、事業、業界について
- ・自社での課題についてグループワーク
- 海外進出/開発/人材